



教育目標 **学ぶ チャレンジ 夢実現**

本年度の重点目標  
 1 学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援  
 2 生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立  
 3 進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度  
 A ほぼ達成 (8割以上)  
 B 概ね達成 (6割以上)  
 C 変化の兆し (3割以上)  
 D 不十分 (3割未満)

学校自己評価						
現状と学校評価実施計画				達成状況と改善策		
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	【学習指導】 ・生徒は、落ち着いた環境の中で、授業や学校行事に積極的に取り組んでいる。しかし、基礎学力の定着や思考力・表現力、学習意欲の向上という面での課題があり、より学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させる授業づくりが求められている。	(1) 基礎学力の定着	①習熟度別授業を取り入れ、個に応じた細かな指導を継続して学力の定着を図る。 ②定期的・継続的に漢字テストとマイスタディの事前・事後指導の実施と時間ごとに小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・少人数指導等の授業工夫や授業アンケートの分析等を通して授業改善に努める。 ・小テスト、事前・事後指導の実施状況と生徒アンケート結果。	・生徒アンケート「習熟度別学習は、自分に合っている」の肯定的な意見は、R3:90.9%、R4:94.4%、R5:91.3%、R6:81.0%となっており、減少傾向にある。 ・「マイスタディは、自分の学力を伸ばす良い機会である」の肯定的な意見は、R3:86.4%、R4:88.9%、R5:69.6%、R6:71.4%となっており、昨年度よりは持ち直している。	B
		(2) 体験・経験を通じた活動に触れる	①各行事の中で、体験活動を通して自己の対応力(表現力や知識など)を向上させる。	・事前・事後指導の実施状況と生徒アンケート結果。	・生徒の感想文等から、各行事への参加を通じて、対応力の向上が見られた。	B
		(3) 教員の授業力の向上	①ICT 機器や視聴覚教材を活用するなど、生徒がもっと学びたいと思う授業、わかりやすい授業の実践を目指す。 ②教員間の校内公開授業の実施と公開授業の参観率の向上を図る。	・参観授業を計画的に実施し、ICT 機器の活用や技術向上をねらいとした授業の実践。 ・公開授業等を利用し、教員相互の学びあいや意見交換の機会の確保。	・ICT 機器を活用した授業の頻度は増えており、「ほぼ毎日活用」と回答した教員も相当数増加した。 ・公開授業週間を年2回実施することができ、授業公開による「緊張感」が、学校・教員・生徒に変化をもたらしている。	B
2	【生徒指導】 ・まじめで優しい生徒が多く穏やかな学校生活を送っている。しかし、健康面や就労等の影響で欠席が続く生徒がいることから、生活習慣の確立や自己有用感を高める指導が求められている。	(1) 居がいのある学校づくりの構築	①生徒の個々の状況に応じた声かけを継続し、生徒理解に努める。 ②生徒の学校生活充実のために、授業、課外活動等教育活動全般を通して積極的参加を推奨し、生徒の主体的・協働的な態度を育てる。	・定期面談、SC 面談に加え、登下校指導、校内外巡回等達成状況。 ・校内の諸教育活動における生徒の充実度及び達成状況。	・定期面談に加え、必要に応じた面談を実施するとともに、校内外巡回を徹底し、生徒の安心安全な学校生活を確保した。 ・教育活動全般を通じて積極的な声かけに努めた。	B
		(2) 基本的生活習慣の確立	①皆勤及び精勤を目指すはたらきかけを実施する。 ②生徒並びに保護者へ寄り添い、報告・連絡・相談を徹底する。	・欠席・遅刻・早退数の減少(昨年度比)。 ・きめ細かな双方向の連絡の実施状況。	・生徒アンケートにおいて欠席、遅刻、早退に対する意識向上の傾向はみられたが、2学期の出席率は72.8%となり昨年度より減少傾向となってしまった。 ・欠席や早退時の保護者との連絡、相談は徹底することができた。	B
3	【進路指導】 ・職業観・勤労観が多様で進路決定時期に決断を先送りする生徒が多い。 ・自己理解の不足等により、進路目標を描く術が限られてしまう生徒も一定数いる。	(1) 職業観の育成・進路意識の高揚	①進路関係の行事や、進路情報の提供等を通して、職業観の育成、進路意識の高揚を図る。 ②進路や勤務先等の調査を実施するとともに、昼間の時間を有効活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・各行事の生徒作文での感想や、生徒・保護者アンケートにおける進路に関する項目の結果。 ・勤務先調査の結果で就労率70%以上。 ・職業観に関する生徒アンケート結果。	・生徒からの評価は7割超、保護者からの評価は9割超の充実度が観察された。今年度は、新規に卒業生講話(11月)矢板市地域研究(12月)民間企業人事担当者講話(2月)を組入れ、継続して目的の達成を図っていく。 ・就労率は伸び悩んでいるが(5割)、生徒一人一人の特性を踏まえた場合は、やむを得ない数値かと判断する。	B
		(2) 自己理解の深化	①LHRや総合的な探究の時間等における取組や、適性検査の結果等を活用し、多面的に自己理解を深めさせる。	・職業観に関する生徒アンケート結果。 ・進路希望内定調査における未内定者の減少。	・生徒の自己理解充実度は4割強。今後はより一層、「生きる」「働く」の2語を鍵語として、今後は、キャリア名言掲示、進路指導主事講話における深度のある講話を実施していく。	B

学校関係者評価
実施日 令和7年2月17日
学校関係者からの評価・意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変素晴らしい教育が行われている。生徒アンケートにおいて「先生は、私の悩みなど相談によく応じてくれる」という項目に対し、肯定的回答が100%であり、今後も一人一人の生徒を大切に见守ってほしい。</li> <li>・教員間のコミュニケーションにおいて「真面目な雑談」は大切なものである。生徒に関する情報交換に役立てて、生徒理解にもつなげてほしい。</li> <li>・アンケート結果で低い項目があるが、少人数による回答のため、年度間で多少の変動が出てしまうのはやむを得ないことである。全般的には生徒が肯定的に学校生活をとらえていることが、アンケート結果から読み取れる。</li> <li>・デジタル教科書の導入が昨今話題になっている。紙の教科書の方が適していると思われる教科があり、知識の定着率にも差があることを念頭に置いて準備を進めてほしい。</li> <li>・部活動以外での場面で生徒たちが活躍しているケースがある。そのような話題も積極的に取り上げ、HP等で紹介してほしい。</li> </ul>